

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：向丘はなみずき保育園	種別：保育所
代表者氏名：矢外 泰子	定員（利用人数）： 120名
所在地：川崎市宮前区南平台4-2	
TEL：044-750-0150	ホームページ：http://www.fujimiplaza.com/hanamizuki
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2017年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人子の神福祉会	
職員数	常勤職員： 20名 非常勤職員 18名
専門職員	（専門職の名称）
	保育士 24名 子育て支援員 7名
	看護師 1名
施設・設備の概要	（居室数） 保育室6 （設備等）

③理念・基本方針

<保育理念>

- ・保護者と協力しながら、子ども一人ひとりの主体性を大切にしていく。
- ・地域の人々との交流を図り、子育て支援を通じて、福祉の役割を担う。

<保育方針>

- ・個性を受け止め、安心して過ごせる保育環境を整備する。
- ・地域の人々と関わる中で集団行動のマナーを培う。
- ・一人ひとりの保護者の思いを受け止め支援する。
- ・発達に応じた活動ができるよう環境を整える。
- ・大人や、子どもとの関わりの中で、信頼関係をつくる。
- ・人の話を聞いたり、自分の思いを伝える中で、考える力を育てる。

<保育目標>

- ・心身共に健康な子
- ・人を思いやる子
- ・感性豊かな子

④施設・事業所の特徴的な取組

○今年度の目標である「子どもが主体的、自発的に遊ぶ」ことができるよう、コーナーを充実し、環境作りを行っている。おままごと遊び、折り紙遊び、粘土遊び、人形遊びなど、子どもたちが自分の好きな遊びを自由に選ぶことができるよう、各クラスのコーナーを整えている。給食当番や花壇の水やり当番など、当番活動も子どもたちが自主的に行っている。園からの帰り道の歩き方についても皆で考え、「一人で走って行かないで、家族と手をつないで歩こう」など、子どもたちがルールを決めている。

○子どもたちは、ピーマンやナス、オクラ、サツマイモ、カボチャなどを園の畑で栽培し、収穫している。野菜に毎日水やりをし、成長を楽しみにしている。花から実になる様子、収穫した野菜の形や匂いなどを確認して、収穫の喜びを味わい、野菜を慈しんでいる。収穫した野菜は給食に提供し、子どもたちは、今まで食べられなかったピーマンが食べられたなど、喜びを感じている。秋には、栄養士による「サンマ祭り」を行い、園庭で秋刀魚を観察したり、触ったり、骨の取り方を教わったりして、綺麗に食べることができ、食べ物への感謝の気持ちを育てている。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2020年8月1日（契約日）～ 2021年2月3日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（年度）

⑥総評

- ◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等
- 向丘はなみずき保育園は、定員120名の園で、1階に0～2歳の乳児クラス、2階に3～5歳の幼児クラスの保育室がある。4年前、公立の保育園から、社会福祉法人の運営に代わり、園舎も新しくしている。保育の内容は、旧公立時の良いところを残しつつ、向丘はなみずき保育園の理念や方針に沿った保育を取り入れて実施している。
- 開園して4年目を迎え、職員も定着しつつある。今年度は園を改善する年として、職員全員が自己評価を行い、目標を立てて保育に取り組んでいる。正規職員は「保育士の自己評価」、非常勤職員は「自己チェックシート」を用いて、4月に自己の目標を設定し、3月に評価することとしている。
- 園は集合住宅に囲まれているが、すぐ近くには公園があり、自然環境に恵まれている。天気がよい日は、子どもたちが袋を持って公園に行き、ドングリや落ち葉を拾い、ドングリの独楽やクリスマスリースを作っている。園庭も広く、子どもたちは散歩や園庭で、好きな遊びを選び、自由に身体を動かしている。
- 0歳児の保育では、安心・安全・衛生の三点に配慮し、子どもたちが快適に過ごすことができる環境作りを行っている。子どもたちが楽しむことができるおもちゃを入れ替え、消毒後の清潔なおもちゃで遊ぶことができるよう取り組んでいる。子どもたちが何かできた時は、ともに喜び、ほめながら、時には代弁して、愛着関係を構築している。午睡の際は、SIDS（乳幼児突然死症候群）に注意し、5分置きに呼吸の確認をして記録し、保護者にも状況を配信している。
- 1歳以上3歳未満児の保育では、感染症に罹患しやすくなる時期であるため、咳やくしゃみがある場合は、他の子どもと少しテーブルを離すようにしている。おままごとを出して遊んだり、絵本を読んでもらったりと、子どもたちが異なる遊びをしている時は、サークルを使って集中して遊べるよう工夫している。
- 3歳以上児の保育では、以前は一斉保育を主に行っていたが、子どもたちの主体性を尊重し、自主的な活動ができるよう保育を行っている。子どもたちはコーナー遊びなど、自分で選び、自分で考えた遊びに向っている。また、給食当番や花壇の水やり当番など、当番活動も自主的に行っている。園からの帰り道の歩き方についても、子どもたちがルールを決めている。
- 看護師による「健康集会」を年中児や年長児を対象に行っている。手の洗い方では、特殊液を手塗って、洗い残を確認して、きれいにばい菌をとる洗い方を体験したり、咳をしだすと、ばい菌がどこまで飛ぶのかを、糸玉を使って実験したりして、健康生活の重要性を学んでいる。
- 記録類のデジタル化を進めている。コドモン～保育のICTシステム（指導案の作成、

記録、登降園管理、シフト管理、保護者アプリなど)を活用して、記録類を管理する他、連絡事項や「園だより」などを保護者に配信している。また、保護者との遣り取りも、コドモンを活用している。保護者から「家庭でおかずを作っても、ご飯だけしか食べないので心配」など、悩みごとの返信がある。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回第三者評価の受審を受け、当園のサービスの質について客観的に評価をして頂き、当園の課題が明確になりました。今回の評価結果を真摯に受け止め、ひとつひとつ課題解決に取り組んで参ります。保護者アンケートにつきましては、96.7%が保育園で楽しく過ごせているとの回答を確認し、保護者の皆さまが安心して預けて下さっていることがわかりほっとしています。また温かいコメントを頂いた事は職員の励みにもなります。改善点につきましては職員で共有し見直しをしていきたいと思ひます。今後もチームワークを大切に「笑顔いっぱいみんなのお家」にふさわしい園となるよう、保護者の皆様とも連携し運営して参ります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり